

有馬さん朗読 流転人生の句

昨年12月に亡くなった物理学者で、静岡文化芸術大の理事長を務めた有馬朗人さんの俳句を朗読や歌で収録したCD「流転(るてん)」が同年5月に完成した。有馬さん主宰の俳句結社「天為」の30周年記念として発表を控えていたが、逝去を受けて今年に入り発表。関係者は「有馬先生自ら朗読した貴重な作品。過去の代表作から近作まで、詩情に寄り添う楽曲とともに楽しんでもらえたら」と話す。

「羊日の机に重き黙示録」「あかねさす近江の国の飾曰(かざりうた)」
 「CDは、有馬さんが生前、新年の季語を含んだ4句を朗読する形で始まる。」

俳句を楽曲に乗せる「俳句音楽」を手掛ける「浜名湖総合プロデュース」(浜松市中区)の企画に、有馬さんが賛同して制作した。同社の清水栄利子代表は「歴史や土地を自在に往来する、詩情豊かな作品ばかり」と語る。フリーアナウンサー沢木久雄さんの朗読が続き、計約100句を紹介する。朗読と交互で流れるのが、ギタリスト中村ヨシミツさんが俳句の真意をくみ取って作曲した音楽。歌手三原ミユキさんの伸びやかな歌声で情景が表現される。完成作品を深くくづなきながら聴き入っていた

生前、浜松の会社とCD

- 収録された代表作
- 光堂より一筋の雪解水
 - あかねさす近江の国の飾曰
 - 祇園会や千の乙女に千の櫛
 - 月山の木魂と遊ぶ春氷柱
 - いくこにも龍ある国の天高し

音楽添えて 詩情豊かに

という有馬さん。タイトルの流転は自ら考えた。「僕はあちこち転がり回る人生だったからな」と笑いながら語っていたという。清水代表は、海外生活が長く、物理学者、生人、政治家、教育者と

さまさまな立場を経験したゆえの言葉だろうと推し量る。CDは2千円(税込)。問い合わせは同社へ。電話053(489)3301へ。(浜松総局・佐野由香利)



2019年12月、俳句の朗読の収録に臨む有馬朗人さん
 浜松市内(浜名湖総合プロデュース提供)